

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日:-
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

Corteva Agriscience<sup>TM</sup> は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。このSDSは、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。このSDSは、日本の法規制及びJIS Z 7253に準拠して作成されたものであり、日本以外の国の規制を満たすものではありません。

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

## 供給者の会社名称、住所及び電話番号

## 会社情報

## 製造業者/輸入業者

コルテバ・ジャパン株式会社  
100-6110 東京都千代田区永田町 2-11-1

会社電話番号 : 03-3519-3190  
電子メールアドレス : SDS@corteva.com

緊急連絡電話番号 : 0800-170-5827

## 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 農薬 (除草剤)

## 2. 危険有害性の要約

## 化学品の GHS 分類

発がん性 : 区分 1A  
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) (吸入) : 区分 2 (肺)  
水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分 1

## GHS ラベル要素

## スナップショット™粒剤

版番号 改訂日: 整理番号: 前回改訂日: -  
1.0 2023/11/03 800080003389 初回作成日: 2023/11/03

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 :

危険

危険有害性情報 :

H350 発がんのおそれ。  
H373 長期にわたる、又は反復ばく露（吸入）による臓器の障害のおそれ（肺）。  
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き :

**安全対策:**

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。  
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
P260 粉じんを吸入しないこと。  
P273 環境への放出を避けること。  
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

**応急措置:**

P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。  
P391 漏出物を回収すること。

**保管:**

P405 施錠して保管すること。

**廃棄:**

P501 内容物／容器を承認された処理施設に廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

知見なし。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

**成分**

化学名	CAS 番号	含有量 (% w/w)	化審法 (ENCS)/安衛法 (ISHL) 番号
α, α, α-トリフルオロ-2, 6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-p-トルイジン (別名トリフルラリン)	1582-09-8	2	3-426 4-(12)-284 / 4-(12)-215
イソキサベン	82558-50-7	0.5	
石英	14808-60-7	8.7	1-548

### 4. 応急措置

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日:-
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

- 吸入した場合 : 新鮮な空気の場所に移動させる。呼吸停止の時は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。  
呼吸困難の場合は、有資格者が酸素吸入を行う。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱がせる。直ちに皮膚を大量の水で15~20分間洗浄する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。
- 眼に入った場合 : 眼を開いたまま15~20分間でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5分洗眼してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。  
物理的的刺激により損傷を起こすことがある。
- 飲み込んだ場合 : 中毒情報センターに連絡するか直ちに医師の診察を受ける。可能なら一杯の水を少しずつ飲ませる。医師の指示がない限り吐かせない。  
意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 知見なし。
- 応急措置をする者の保護 : 応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。  
ばく露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。
- 医師に対する特別な注意事項 : 患者に十分な換気および酸素吸入を維持すること。  
特別な解毒剤はない。  
ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。  
中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧  
泡  
二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)  
粉末消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 知見なし。
- 特有の危険有害性 : 燃焼生成物にさらされると、健康に危害を及ぼす可能性がある。  
火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。
- 有害燃焼副産物 : 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。  
燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけでは限らない :  
窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日:-
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

フッ化水素  
炭素酸化物

- 特有の消火方法 : 安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。区域から退避させること。現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。
- 消火を行う者の保護 : 火災時には、自給式呼吸器を着用する。保護具を使用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 十分な換気を確保する。粉じんの発生を避ける。粉じんを吸い込まないよう留意。保護具を使用する。適切な安全設備を用いること。追加情報として、第8項、暴露防止及び保護措置を参照。
- 環境に対する注意事項 : 製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。環境への放出は必ず避けなければならない。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。汚染された洗浄水を保管し、処分する。流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目12の環境影響情報を参照。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 本物質、ならびに放出物の清掃に使用した資材および品目の放出および処分については、地方または国の規制が適用される場合がある。粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。回収物質は、ベント付き容器に保管すること。漏洩物質が更に反応し、容器内が加圧状態になることがあるので、通気孔から水が侵入しないようにすること。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。こぼれたものは、掃きとるか掃除機で吸い取り、適切な容器に移し、廃棄する。追加情報として、項目13の廃棄上の注意を参照。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 局所排気、全体換気 : 局所換気を行い使用する。

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号 改訂日: 整理番号: 前回改訂日: -  
1.0 2023/11/03 800080003389 初回作成日: 2023/11/03

- 安全取扱注意事項 : 作業室の換気や排気を十分に行う。  
吸入性粉じんが発生しないように留意する。  
蒸気/粉じんを吸い込まない。  
十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。  
曝露を避ける—使用前に特別指示を受ける。  
作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。  
皮膚や衣服に付けない。  
飲み込まない。  
眼との接触を避ける。  
容器を密閉しておくこと。  
漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。  
適切な安全設備を用いること。追加情報として、第8項、暴露防止及び保護措置を参照。
- 接触回避 : 強酸  
強塩基類
- 保管
- 安全な保管条件 : 密閉容器に保管すること。  
関係者以外立ち入り禁止。  
一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。  
適切なラベルのついた容器に入れておく。  
各国の規定に従って保管する。
- 混触禁止物質 : 強酸化剤  
有機過酸化物  
爆発物  
ガス

## 8. ばく露防止及び保護措置

## 作業環境における成分別暴露限界/許容濃度

成分	CAS 番号	指標 (暴露形態)	管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度	出典
石英	14808-60-7	OEL-C (吸入性粉じん)	0.03 mg/m <sup>3</sup> (シリカ)	日本産業衛生学会 (許容濃度)
	詳細情報: 発がん物質, 「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である. この群に分類される物質は, 疫学研究からの十分な証拠がある.			
		TWA (呼吸濃度)	0.025 mg/m <sup>3</sup> (シリカ)	ACGIH

- 設備対策 : 空气中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。  
許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。  
一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日:-
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

## 保護具

呼吸用保護具 : 許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。  
許容濃度が未設定の場合、認可された呼吸器用保護具を使用する。  
特定の作業や物質の空气中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。  
緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。

## 手の保護具

備考 : 長時間または何度も繰り返し接触する可能性がある場合は、この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例: ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたはNBR)。ポリ塩化ビニル(PVCまたはビニル)。注意: 特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある: 取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件(切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具 : 安全メガネ(サイドシールド付)を着用する。  
眼の不快感を引き起こす粒子に暴露する可能性がある時は、ケミカルゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具 : 清潔で、長袖の、全身を覆う衣服を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 細粒  
色 : 淡黄色  
臭い : 芳香臭  
臭いのしきい(閾)値 : データなし  
融点/ 範囲 : データなし  
凝固点 : 適用なし。  
沸点/ 沸騰範囲 : 適用なし。  
可燃性(固体、気体) : 非該当

## 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

爆発範囲の上限/可燃上限 : 適用なし。  
値

爆発範囲の下限/可燃下限 : 適用なし。  
値

引火点 : 方法: 密閉式引火点試験

## スナップショット™粒剤

版番号 1.0	改訂日: 2023/11/03	整理番号: 800080003389	前回改訂日: - 初回作成日: 2023/11/03
------------	--------------------	-----------------------	-------------------------------

	適用なし。
pH	: 7.5 (50%分散液)
蒸発速度	: 適用なし。
かさ密度	: 0.70 gPcm3 (23.4 ° C) 方法: かさ密度(ルーズ)
自然発火点	: > 537 ° C
粘度 粘度(粘性率)	: 適用なし。
溶解度 水溶性	: データなし
蒸気圧	: 適用なし。
密度及び/又は相対密度 密度	: 適用なし。
相対ガス密度	: 適用なし。
爆発特性	: 非該当
酸化特性	: 5°Cを超える顕著な温度上昇なし。
粒子特性 粒子サイズ	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 反応性危険としては分類されない。
化学的安定性	: 指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。 通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	: 推奨保管条件下では安定。
避けるべき条件	: 知見なし。
混触危険物質	: 強酸 強塩基類
危険有害な分解生成物	: 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。 分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 窒素酸化物(N0x)

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

フッ化水素  
炭素酸化物

## 11. 有害性情報

## 急性毒性

製品:

- 急性毒性 (経口) : LD50 (ラット): > 2,500 mg/kg  
症状: この濃度では死に至らない。  
アセスメント: この物質または混合物は急性の経口毒性は無い。  
備考: 情報源: 内部試験報告書
- 急性毒性 (経皮) : LD50 (ウサギ, オスおよびメス): > 5,000 mg/kg  
備考: 情報源: 内部試験報告書

成分: **$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**

- 急性毒性 (経口) : LD50 (ラット): > 5,000 mg/kg
- 急性毒性 (吸入) : 備考: 物性上、蒸気は発生しにくい。  
粉塵への単回ばく露による有害作用はないと考えられる。  
入手可能なデータによると、呼吸器への刺激は見られなかった。  
  
LC50 (ラット): > 4.8 mg/l  
曝露時間: 4 h  
試験環境: 粉じん/ミスト  
アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。
- 急性毒性 (経皮) : LD50 (ウサギ): > 5,000 mg/kg

イソキサベン:

- 急性毒性 (経口) : LD50 (ラット, オスおよびメス): > 5,000 mg/kg
- 急性毒性 (吸入) : 備考: 長期間粉塵に過剰暴露すると、有害影響を起こすことがある。  
入手可能なデータによると、麻酔作用は見られなかった。  
入手可能なデータによると、呼吸器への刺激は見られなかった。  
  
LC50 (ラット, オスおよびメス): > 2.93 mg/l  
曝露時間: 4 h  
試験環境: 粉じん/ミスト

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日:-
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。

症状: この濃度では死に至らない。

備考: 到達可能な最高濃度。

急性毒性 (経皮) : LD50 (ウサギ, オスおよびメス): > 2,000 mg/kg  
症状: この濃度では死に至らない。  
アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

## 皮膚腐食性/刺激性

製品:

種 : ウサギ  
結果 : 皮膚刺激なし

成分:

$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):

結果 : 皮膚刺激なし

## イソキサベン:

種 : ウサギ  
結果 : 皮膚刺激なし

## 石英:

結果 : 皮膚刺激なし

## 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

製品:

種 : ウサギ  
結果 : 眼への刺激なし

成分:

$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):

結果 : 眼への刺激なし

## イソキサベン:

種 : ウサギ  
結果 : 眼への刺激なし

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

---

**石英:**

結果 : 眼への刺激なし

**呼吸器感作性又は皮膚感作性****製品:**

種 : モルモット  
アセスメント : 皮膚感作性なし。

**成分:** **$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**

アセスメント : 皮膚に触れると感作を起すことがある。  
備考 : 皮膚接触によりアレルギー性皮膚反応を示すことがある。  
備考 : 呼吸器感作性 :  
関連のあるデータは得られていない。

**イソキサベン:**

備考 : モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。  
備考 : 呼吸器感作性 :  
関連のあるデータは得られていない。

**生殖細胞変異原性****成分:** **$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**

生殖細胞変異原性 - アセスメント : In vivo 試験で、突然変異誘発性が示されなかった。  
In vitro 遺伝毒性試験の結果は、圧倒的に陰性が多かった。、動物遺伝毒性試験はほとんどが陰性だった。

**イソキサベン:**

生殖細胞変異原性 - アセスメント : In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。、動物遺伝毒性試験はほとんどが陰性だった。

**石英:**

生殖細胞変異原性 - アセスメント : In vitro 遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

---

## 発がん性

成分:

**$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**  
発がん性 - アセスメント : 動物実験では発がん性への影響は見られなかった。

トリフルラリンのラットによる5つの長期試験では、その内の1つの試験で、尿路腫瘍の低頻度発生が観察された。トリフルラリンはヒトに対し発がん性は予見されない。

## イソキサベン:

発がん性 - アセスメント : イソキサベンにより、試験した2種の内1種で良性の肝臓腫瘍の増加が観察された。

## 石英:

発がん性 - アセスメント : 人間の発癌性物質。

ヒトで発がん性を示した。、実験動物で発がん性が認められた。

## 生殖毒性

成分:

**$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**  
生殖毒性 - アセスメント : 動物実験では繁殖力への影響は無かった。

動物試験では、生殖を阻害しなかった。  
実験動物において、母体毒性を示す用量で胎児毒性が認められた。、動物試験で、催奇形性はなかった。

## イソキサベン:

生殖毒性 - アセスメント : 動物試験では、雌の生殖を阻害することを示した。、親動物に対して重大な毒性を示した用量においてのみ、影響が認められた。  
実験動物において、母体毒性を示す用量でのみ催奇形性が認められた。

## 石英:

生殖毒性 - アセスメント : 類似物質について、動物試験で、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

## 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

製品:

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日:-
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

アセスメント : 使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

**成分:**

**$\alpha$ ,  $\alpha$ ,  $\alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**

アセスメント : 使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

**イソキサベン:**

アセスメント : 使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

**石英:**

アセスメント : 使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

**特定標的臓器毒性（反復ばく露）****成分:**

**イソキサベン:**

アセスメント : この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)としては未分類。

**石英:**

暴露の主経路 : 吸入  
標的臓器 : 肺  
アセスメント : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

**反復投与毒性****成分:**

**$\alpha$ ,  $\alpha$ ,  $\alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**

備考 : 動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：  
腎臓。  
血液。  
肝臓。  
甲状腺。

**イソキサベン:**

備考 : 動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：  
肝臓。  
腎臓。

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

**石英:**

備考

: ヒトでは、以下の臓器に影響することが報告されている：  
腎臓。  
結晶シリカに反復過剰暴露すると珪肺症や、肺の病気を進行させたり肺が機能しなくなる疾患を起こすことがある。

**誤えん有害性****製品:**

物性上、誤えん有害性は低い。

**成分:**

**$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**  
物性上、誤えん有害性は低い。

**イソキサベン:**

物性上、誤えん有害性は低い。

**石英:**

物性上、誤えん有害性は低い。

**12. 環境影響情報****生態毒性****製品:**

魚毒性

: LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 230 mg/l  
曝露時間: 96 h  
試験タイプ: 半止水式

ミジンコ等の水生無脊椎動物  
に対する毒性

: EC50 (Daphnia pulex (ミジンコ)): > 1,000 mg/l  
曝露時間: 48 h

藻類/水生生物に対する毒性

: ErC50 (Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻)): > 1,000 mg/l  
曝露時間: 96 h

土中生物に対する毒性

: LC50 (Eisenia fetida (ミミズ)): > 10,000 mg/kg  
曝露時間: 14 d  
エンドポイント: 生存

地上生物に対する毒性

: 備考: 物質は事実上、鳥に対して急性毒性を示さない(LD50 > 2000 mg/kg)。

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

経口 LD50 (Colinus virginianus (コリンウズラ)): > 2000 mg/kg 体重

**成分:**

**$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**

魚毒性 : 備考: 物質は、水生生物に対してきわめて高い急性毒性を示す(最も感受性の高い種では LC50/EC50 < 0.1 mg/L)。

LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.088 mg/l

曝露時間: 96 h

試験タイプ: 流水式試験

LC50 (Lepomis macrochirus (ブルーギル)): 0.089 mg/l

曝露時間: 96 h

試験タイプ: 流水式試験

ミジンコ等の水生無脊椎動物 : EC50 (オオミジンコ): 0.245 mg/l

に対する毒性

曝露時間: 48 h

試験タイプ: 止水式試験

EC50 (イガイ (Mytilus edulis)): 0.096 mg/l

曝露時間: 48 h

試験タイプ: 止水式試験

藻類/水生生物に対する毒性 : ErC50 (Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻)): 0.0532 mg/l

曝露時間: 72 h

EC50 (イボウキクサ (Lemna gibba)): 0.043 mg/l

曝露時間: 7 d

試験タイプ: 成長抑制

EbC50 (珪藻 (Navicula 属)): 0.015 mg/l

エンドポイント: バイオマス

曝露時間: 5 d

M-ファクター (水生環境有害 : 10

性 短期 (急性) )

魚毒性 (慢性毒性)

: 最大無影響濃度 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.00114 mg/l

エンドポイント: 成長

曝露時間: 48 d

試験タイプ: 止水式試験

ミジンコ等の水生無脊椎動物 : 最大無影響濃度 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.0507 mg/l

に対する毒性 (慢性毒性)

エンドポイント: 成長

曝露時間: 21 d

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号 改訂日: 整理番号: 前回改訂日: -  
1.0 2023/11/03 800080003389 初回作成日: 2023/11/03

試験タイプ: 半止水式

- M-ファクター (水生環境有害性 長期 (慢性) ) : 10  
微生物に対する毒性 : EC50 (活性汚泥): > 100 mg/l  
曝露時間: 3 h
- 土中生物に対する毒性 : LC50 (*Eisenia fetida* (ミミズ)): > 1,000 mg/kg  
曝露時間: 14 d
- 地上生物に対する毒性 : 備考: 物質は事実上、鳥に対して急性毒性を示さない(LD50 > 2000 mg/kg)。, 物質は、混餌投与すると、事実上、鳥に対して毒性を示さない(LC50 > 5000 ppm)。

経口 LD50 (*Colinus virginianus* (コリンウズラ)): > 2250 mg/kg 体重

混餌 LC50 (*Colinus virginianus* (コリンウズラ)): > 5000 mg/kg 餌  
曝露時間: 5 d

経口 LD50 (*Apis mellifera* (ミツバチ)): > 100 マイクログラム/蜂

接触 LD50 (*Apis mellifera* (ミツバチ)): > 100 マイクログラム/蜂

## イソキサベン:

- 魚毒性 : 備考: 物質は、水生生物に対してきわめて高い急性毒性を示す (最も感受性の高い種では LC50/EC50 < 0.1 mg/L)。

LC50 (*Oncorhynchus mykiss* (ニジマス)): 1.2 mg/l  
曝露時間: 96 h

試験タイプ: 止水式試験

方法: OECD テストガイドライン 203 あるいは同等のもの

備考: LC50 値は、水に対する溶解度を超過している。

LC50 (*Cyprinodon variegatus* (シーブスヘッドミノー)): > 0.87 mg/l

曝露時間: 96 h

試験タイプ: 止水式試験

方法: OECD テストガイドライン 203 あるいは同等のもの

備考: LC50 値は、水に対する溶解度を超過している。

- ミジンコ等の水生無脊椎動物 : EC50 (*Daphnia magna* (オオミジンコ)): > 1.3 mg/l  
に対する毒性 曝露時間: 48 h

試験タイプ: 止水式試験

方法: OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

---

- 藻類／水生生物に対する毒性 : EbC50 (*Lemna minor* (コウキクサ)): 0.011 mg/l  
エンドポイント: バイオマス  
曝露時間: 7 d  
試験タイプ: 止水式試験  
方法: OECD テストガイドライン 201 あるいは同等のもの
- ErC50 (*Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻)): > 1.2 mg/l  
エンドポイント: 生長率阻害  
曝露時間: 72 h  
試験タイプ: 止水式試験
- ErC50 (*Skeletonema costatum* (スケルトネマ・コスタトゥム)): > 0.49 mg/l  
曝露時間: 72 h  
試験タイプ: 止水式試験
- M-ファクター (水生環境有害性 短期 (急性) 魚毒性 (慢性毒性)) : 10
- 最大無影響濃度 (*Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ)): 0.4 mg/l  
エンドポイント: 成長  
曝露時間: 33 d  
試験タイプ: 半止水式
- LOEC (*Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ)): > 0.40 mg/l  
エンドポイント: 成長  
曝露時間: 33 d  
試験タイプ: 半止水式
- MATC (Maximum Acceptable Toxicant Level 最大許容毒性レベル) (*Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ)): > 0.40 mg/l  
エンドポイント: 成長  
曝露時間: 33 d  
試験タイプ: 半止水式
- ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性) : 最大無影響濃度 (*Daphnia magna* (オオミジンコ)): 0.69 mg/l  
エンドポイント: 成長  
曝露時間: 21 d  
試験タイプ: 止水式試験  
方法: OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの
- LOEC (*Daphnia magna* (オオミジンコ)): 1.01 mg/l  
エンドポイント: 成長  
曝露時間: 21 d  
試験タイプ: 止水式試験  
方法: OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

MATC (Maximum Acceptable Toxicant Level 最大許容毒性レベル) (Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.85 mg/l  
 エンドポイント: 成長  
 曝露時間: 21 d  
 試験タイプ: 止水式試験  
 方法: OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの

最大無影響濃度 (塩水アミ (Mysidopsis bahia)): 0.841 mg/l  
 曝露時間: 28 d  
 試験タイプ: 流水式試験

LOEC (塩水アミ (Mysidopsis bahia)): > 0.841 mg/l  
 曝露時間: 28 d  
 試験タイプ: 流水式試験

最大無影響濃度 (ユスリカ類 (Chironomus riparius)): 32 mg/l  
 エンドポイント: 死亡率  
 曝露時間: 28 d  
 試験タイプ: 止水式試験  
 方法: OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの

LOEC (ユスリカ類 (Chironomus riparius)): 64 mg/l  
 エンドポイント: 死亡率  
 曝露時間: 28 d  
 試験タイプ: 止水式試験  
 方法: OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの

MATC (Maximum Acceptable Toxicant Level 最大許容毒性レベル) (ユスリカ類 (Chironomus riparius)): 48 mg/l  
 エンドポイント: 死亡率  
 曝露時間: 28 d  
 試験タイプ: 止水式試験  
 方法: OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの

- M-ファクター (水生環境有害性 長期 (慢性) 微生物に対する毒性) : 10
- EC50 (活性汚泥): > 100 mg/l  
 エンドポイント: 呼吸速度  
 曝露時間: 3 h  
 試験タイプ: 呼吸抑制
- 土中生物に対する毒性 : LC50 (Eisenia fetida (ミミズ)): > 1,000 mg/kg  
 曝露時間: 14 d
- 地上生物に対する毒性 : 備考: 物質は事実上、鳥に対して急性毒性を示さない (LD50 > 2000 mg/kg)。, 物質は、混餌投与すると、鳥に対して中等度の毒性を示す (LC50 501~1000 ppm)。

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

経口 LD50 (Colinus virginianus (コリンウズラ)): > 2000 mg/kg 体重  
曝露時間: 14 d

LC50 (Colinus virginianus (コリンウズラ)): > 937 mg/kg 餌  
曝露時間: 8 d

経口 LD50 (Apis mellifera (ミツバチ)): > 100 マイクログラム/蜂

接触 LD50 (Apis mellifera (ミツバチ)): > 100 マイクログラム/蜂  
曝露時間: 48 h

## 環境毒性アセスメント

- 水生環境有害性 短期 (急性) : 水生生物に非常に強い毒性。  
水生環境有害性 長期 (慢性) : 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

## 石英:

- 魚毒性 : 備考: 類似物質の情報による :  
物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 > 100 mg/L)。

LC50 (Danio rerio (ゼブラフィッシュ)): 508 mg/l  
曝露時間: 96 h  
備考: 類似物質の情報による :

- ミジンコ等の水生無脊椎動物 に対する毒性 : EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 731 mg/l  
曝露時間: 48 h  
備考: 類似物質について

## 残留性・分解性

## 成分:

- $\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):  
生分解性 : 備考: 物質は難分解性であると考えられる(環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。

含有量: 10 mg/l  
結果: 易分解性ではない。  
生分解: 5 %  
曝露時間: 28 d  
方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの  
備考: 10-day Window: 不合格

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号 改訂日: 整理番号: 前回改訂日: -  
1.0 2023/11/03 800080003389 初回作成日: 2023/11/03

- 化学的酸素要求量 (COD) : 1.37 kg/kg
- 水中での安定性 : 試験タイプ: 加水分解  
分解半減期 (半減期): > 1 年 pH: 3 - 9  
方法: 測定値
- 試験タイプ: 光分解  
分解半減期 (半減期): 0.19 - 3.08 h  
方法: 測定値
- 光分解性 : 試験タイプ: 半減期 (間接光分解)  
感作性: OH ラジカル  
含有量: 1,500,000 1/cm<sup>3</sup>  
速度定数: 2.4004E-11 cm<sup>3</sup>/s  
方法: 推定値。
- イソキサベン:**
- 生分解性 : 結果: 分解性なし  
備考: 物質は難分解性であると考えられる(環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。  
生分解率は、順化により、土壌や水中で高くなるだろう。
- 生分解: 1 %  
曝露時間: 28 d  
方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの  
備考: 10-day Window: 不合格
- 化学的酸素要求量 (COD) : 1.77 mg/g
- ThOD : 1.98 kg/kg
- 水中での安定性 : 試験タイプ: 加水分解  
分解半減期 (半減期): > 5 d pH: 7.0
- 光分解性 : 試験タイプ: 半減期 (間接光分解)  
感作性: OH ラジカル  
含有量: 1,500,000 1/cm<sup>3</sup>  
速度定数: 2.045E-10 cm<sup>3</sup>/s  
方法: 推定値。
- 石英:**
- 生分解性 : 備考: 生分解は適用不可。

## 生体蓄積性

## 成分:

$\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号 改訂日: 整理番号: 前回改訂日: -  
1.0 2023/11/03 800080003389 初回作成日: 2023/11/03

---

生体蓄積性 : 種: Oncorhynchus mykiss (ニジマス)  
生物濃縮因子 (BCF) : 2, 280  
方法: 測定値

種: Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ)  
生物濃縮因子 (BCF) : 1, 060 - 6, 000  
含有量: 0. 0018 mg/l  
方法: 推定値。

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) : log Pow: 5. 27  
方法: 方法不特定.  
備考: 生物濃縮の可能性は高い。(BCF > 3000、Log Pow : 5-7)

## イソキサベン:

生体蓄積性 : 種: Lepomis macrochirus (ブルーギル)  
生物濃縮因子 (BCF) : 70. 5  
曝露時間: 28 d  
方法: 測定値

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) : log Pow: 2. 64  
方法: 測定値  
備考: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)

## 石英:

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) : 備考: n-オクタノール・水分配係数は適用不可。

## 土壌中の移動性

## 成分:

 **$\alpha$ ,  $\alpha$ ,  $\alpha$ -トリフルオロ-2, 6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**

環境中の分布 : Koc: 8764. 7  
備考: 土壌中移動性は比較的小さいと考えられる。(Koc > 5000)

土中での安定性 : 試験タイプ: 光分解  
消失時間: 41 d  
方法: 測定値  
試験タイプ: 光分解  
消失時間: 8 - 72 d  
方法: 測定値

## イソキサベン:

環境中の分布 : Koc: 700 - 1290  
備考: 土壌中移動性が小さい(Koc 500~2000)。

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日:-
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

---

土中での安定性 : 試験タイプ: 好氣的分解  
消失時間: 0.358 - 0.883 年  
試験タイプ: 光分解  
消失時間: 248 d

**石英:**

環境中の分布 : 備考: 関連のあるデータは得られていない。

**オゾン層への有害性****成分:** **$\alpha$ ,  $\alpha$ ,  $\alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**

オゾン層破壊係数 : 備考: この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**イソキサベン:**

オゾン層破壊係数 : 備考: この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**石英:**

オゾン層破壊係数 : 備考: この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**他の有害影響****成分:** **$\alpha$ ,  $\alpha$ ,  $\alpha$ -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン(別名トリフルラリン):**

PBT および vPvB の評価結果 : 当物質は、残留性、生物濃縮性、毒性(PBT)であるとは考えられていない。当物質は、極めて高い残留性および極めて高い生物蓄積性(vPvB)であるとは見なされない。

**イソキサベン:**

PBT および vPvB の評価結果 : 当物質は、残留性、生物濃縮性、毒性(PBT)であるとは考えられていない。当物質は、極めて高い残留性および極めて高い生物蓄積性(vPvB)であるとは見なされない。

**石英:**

PBT および vPvB の評価結果 : この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

## 13. 廃棄上の注意

## 廃棄方法

残余廃棄物 : 廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

以下の情報は購入時の状態のときのみ適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を決める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。

内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

## 14. 輸送上の注意

## 国際規制

## 陸上輸送 (UNRTDG)

国連番号 (UN number) : UN 3077

国連輸送名 (Proper shipping name) : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S. (TRIFLURALIN)

国連分類 (Class) : 9

容器等級 (Packing group) : III

ラベル (Labels) : 9

環境有害性 : 該当

## 航空輸送 (IATA-DGR)

UN/ID 番号 (UN/ID number) : UN 3077

国連輸送名 (Proper shipping name) : Environmentally hazardous substance, solid, n. o. s. (TRIFLURALIN)

国連分類 (Class) : 9

容器等級 (Packing group) : III

ラベル (Labels) : Miscellaneous

梱包指示 (貨物機) (Packing instruction (cargo aircraft)) : 956

梱包指示 (旅客機) (Packing instruction (passenger aircraft)) : 956

## 海上輸送 (IMDG-Code)

国連番号 (UN number) : UN 3077

国連輸送名 (Proper shipping name) : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S. (TRIFLURALIN)

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号 改訂日: 整理番号: 前回改訂日: -  
1.0 2023/11/03 800080003389 初回作成日: 2023/11/03

国連分類 (Class) : 9  
容器等級 (Packing group) : III  
ラベル (Labels) : 9  
EmS コード (EmS Code) : F-A, S-F  
海洋汚染物質 (該当・非該当) : 該当 (TRIFLURALIN)  
(Marine pollutant)  
備考 : Stowage category A

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当)  
供給された状態の製品には非該当。

## 国内規制

国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

緊急時応急措置指針番号 : 171

## 詳細情報

国連番号 3077 及び 3082 に割り当てられた海洋汚染物質は、液体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味容量が 5L 以下、固体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味質量が 5kg 以下の単一もしくは組合せ容器において、IMDG コードセクション 2.10.2.7、IATA 特別規定 A197 および ADR/RID 特別規定 375 に規定されるように、非危険物として輸送することができる。

## 特別の安全対策

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのために、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。

## 15. 適用法令

## 関連法規

## 労働安全衛生法

## 名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	含有量 (%)	備考
$\alpha$ , $\alpha$ , $\alpha$ -トリフルオロ-2, 6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-p-トルイジン	>=1 - <3	2025 年 4 月 1 日以降
N - [3 - (1 - エチル - 1 - メチルプロピル) - 1,2 - オキサゾール - 5 - イル] - 2,6 - ジメトキシベンズアミド	>=0.3 - <1	2026 年 4 月 1 日以降
結晶質シリカ	>=3 - <10	-

## 名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	備考

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号 改訂日: 整理番号: 前回改訂日: -  
1.0 2023/11/03 800080003389 初回作成日: 2023/11/03

α, α, α-トリフルオロ-2, 6-ジニトロ-N, N-ジプロピル- p-トリエジン	2025年4月1日以降
結晶質シリカ	-

## 毒物及び劇物取締法

非該当

## 化学物質排出把握管理促進法

## 第一種指定化学物質

化学名	管理番号	含有量 (%)
アルファ, アルファ, アルファ-トリフルオロ-2, 6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-パラ-トリエジン	293	2.0

## 農薬取締法

## 16. その他の情報

日付フォーマット : 年/月/日

## その他の略語の全文

ACGIH : 米国. ACGIH 限界閾値 (TLV)  
日本産業衛生学会 (許容濃度) : 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度  
ACGIH / TWA : 8 時間、時間加重平均  
日本産業衛生学会 (許容濃度) / OEL-C : 最大許容濃度

ADR - 陸路による 危険物品の国際輸送に関する協定; ASTM - 米国材料試験協会; ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと 考えられる濃度; EmS - 緊急時のスケジュール; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学 品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害 濃度; IMDG - 国際 海上危険物規程; IMO - 国際海事機関. LC50 - 50%致死濃度. LD50 - 50%致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に品名が明示されているものを除く; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; (Q)SAR - (定量的) 構造活性相関; RID - 欧州危険物国際鉄道輸送規則; SDS - 安全データシート; UN - 国連. ENCS - 化審 法の既存化学物質リスト  
ISHL - 労働安全衛生法

製品コード: FN-3278

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等のために作成されたものですが、記載されている情報はいかなる保証をするものではなく、品質を特定するものでもありません。また、この SDS のデータはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料と組み合わせた使用に関しては有効ではありません。

スナップショット<sup>TM</sup>粒剤

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: -
1.0	2023/11/03	800080003389	初回作成日: 2023/11/03

---

JP / JA